

令和8年度 新潟小学校教育活動の方針

新潟小学校の子どもは、一人一人が、豊かな個性をもっている。得意なことも一人一人違い、がんばっていることや苦手としていることも、それぞれである。行動傾向や性格なども様々で、新潟小学校は、多様性に満ちている。

多様な個性をもった子どもが、学校生活を一緒に送ることは、楽しくもあり、互いから学ぶことも多くある。それは、平坦な起伏のない学校生活ではない。時には、意に反することや自分の当たり前と違うことが起きることもある。また、時には、自分を越えた知識に出会ったり、思いもよらない考え方に触発されたりすることもある。さらには、互いの思いや考えの違いを調整したり、折り合いを付けたりすることが必要になる。そのようなかかわりこそが、学校で学ぶ最も大きな意義の一つであり、新潟小学校は、まさにそのような意義を実現するにふさわしい学校である。

そこで、令和8年度の新潟小学校では、多様な仲間と共に、互いに成長する過程を通して「認め合う心」「支え合う心」を育成する。

また、新潟小学校の子どもは、一人残らず、自らを高めたい、より良くなりたい、もっとできるようになりたいと願っている。そして、多くの子どもが、自らの目標を定め、その達成に向けて努力を継続している。

新潟小学校では、国語や算数などの教科の学習はもとより、生活科や総合的な学習、特別活動においても、子ども一人一人の力を高め、その成長を実感させる教育活動を行ってきた。自らを高めたいと願っている子どもの思いを、具体的な教育活動に結びつけ、言語化や明確化することで、子どもは意欲を高めることができる。さらに、他者からの働き掛けや評価により、子どもは頑張り続けることができ、その結果が成果に結びつき、子ども自身の充実感や喜びとなる。これらの経験が、物事に立ち向かう構えを作り、努力する基盤を整える。新潟小学校は、これまで、意図的な子どもの経験を重視してきた。

そこで、令和8年度の新潟小学校では、数多くの教育活動において、子どもに自らの目指す姿を考えさせ、今自分がすべきことを自覚させる。そして、そのための努力を促すことで、「挑む力」と「やり抜く力」を育成する。

1 教育目標

教育目標は、「たくましく 美しく」である。

この教育目標を実現するために、4つの資質・能力を設定する。

「挑む力」 「やり抜く力」 「認め合う心」 「支え合う心」

この4つの資質・能力が高まり、深まるよう、教育活動を推進していく

2 教育活動の方針

教育目標を達成し、4つの資質・能力を高めるために一つの土台と三つの柱を定める。

(1) 教育活動の土台

新潟小学校におけるこれまでの実態から生徒指導上の問題を予防するため、日頃から子どもの話を聞き、未然防止に努める。

問題が発生した場合は、子どもが安心して学校生活を送ることができるように、速やかに組織で対応する。そして、発生した生徒指導上の問題を長期化させない、深刻化させない、複雑化させないことを第一に職員の総力を挙げて取り組むことを教育活動の土台とする。まずは、聞き取りを行うなど事実の把握に努め、職員が情報を速やかに共有し、適切に支援や指導を行う。

その際、再発防止を含め、子どもの生きる力を高めるため、自らに向き合えるよう子ども自身に考えさせる支援や指導を大切にする。問題の解決場面においても、「認め合う心」の育成を促していく。これにより、その後における問題回避や自力解決に導いていきたい。

(2) 教育活動の柱

① 深い学び

子どもは、多様であり、一人一人の興味関心は違い、得意不得意も違う。当然、一人一人に合った学びも違ってくる。この多様性を可能な限り受け止め、子どもに寄り添った授業を行っていく。そして、令和7年度に研究実践を積み重ねた「個別最適な学び」を授業に取り入れ、「協働的な学び」と一体的に充実させることにより、深い学びに導く単元や授業の在り方を探ることに力を入れる。一人一人の学びの質を高めていくことで深まる学びもあるが、協働することで学びが深まることもある。深い学びを確かなものとするために、研究授業の実施など、研修活動に力を入れる。

子どもが、自らの学びの目標を定めたり、学びを調整したりする過程において「挑む力」が高まり、協働する過程においては、「認め合う心」が深まることを目指す。

令和8年度は、これまでの研究成果を基礎として、さらに実践を積み重ね、新潟小学校の子どもの実態にあった授業を追求する。加えて、タブレット端末の利活用により一人一人の学びを支え、学びを協働させるツールとしての役割を探る。

〈取り組みの具体例〉

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、深い学びを促す授業に関する研究計画を立て、実践を進める
- ・授業実践を分析・検討し、深い学びについて、その成果と課題を整理する
- ・タブレット端末の適切な活用を推進する

② 協働的な活動

子ども同士のかかわりを広げ、深めることは、子どもの社会的なスキルの向上にとどまらず、自己肯定感の向上や思いやりと寛容性を育む効果も期待できる。教育活動においては、子ども同士の関係づくりを醸成していくことを目指して、協働的な活動を充実させる。そこには、新潟小学校が高めようとしている「支え合う心」が深まる姿を期待することができる。

その際、自らが所属している集団を向上させる活動を大切にしたい。例えば、学校生活を向上させるために自らできることを考え、友達と協働的に取り組む活動を進める。この活動は、自らが所属する集団についての願いを話し合い、そのための方策を考え、実行する過程が大切であり、新潟小学校が高めようとしている「支え合う心」に加え、「挑む力」や「やり抜く力」も発揮することが期待される。

さらには、異年齢の関わりによる活動も充実させたい。異年齢の子どもが一緒に活動する場面では、自然と、上学年の子どもが下学年の子どもに配慮する姿が見られ、下学年の子どもは上学年の子どもを見て学ぶ姿が見られる。「認め合う心」の表れた姿である。

〈取り組みの具体例〉

- ・プロジェクト活動の充実
- ・異学年交流「たんぼぼ班」活動の充実
- ・異学年交流「ペア学年」活動の実施

③ 適切な支援

子どもは、一人一人多様な個性をもっている。その個性に応じた支援を行うことで、子どもは大きな成長を遂げることができる。集団における学びを大切にするとともに、個別の支援を必要としている子どもには、その個性に寄り添った支援を届けていく。

十分に、また効果的に適切な支援を届ける場として、特別支援学級がある。新潟小学校の特別支援学級においては、それぞれの個性に応じ、必要とされている支援を行っていく。同時に、通常学級の子どもにも、それぞれに個性があり、すべての子どもが安心し、「分かる」「できる」を実感できる学びを届ける必要がある。そのために、可能な限り、環境整備と支援の体制を充実させていく。また、早期の支援を行うと同時に、計画的な就学支援にも力を入れていく。

適切な支援を必要としている子どもが、適切にその支援を受けるためには、周囲にいる人々の理解も重要となる。子ども自身が、他者の多様な個性を肯定的に受けとめ、互いに尊重することで、一人一人の個性が生かされるようになる。この姿は、新潟小学校が高めようとしている「認め合う心」が深まっている姿でもある。また、保護者との情報共有、支援方針の合意形成を促進するため、学校と家庭とのコミュニケーションをこれまで以上に重視するとともに、特別支援教育を理解してもらう取り組みを進める。

〈取り組みの具体例〉

- ・ 通常学級、特別支援学級を問わず、支援を必要としている子どもへの支援体制の構築
- ・ 安心して学べる学級づくりと子どもの多様な個性が活かされる授業
- ・ 適切な支援に関する保護者や児童への啓発

3 教育活動の基盤となる取り組み

(1) 地域と協力して教育活動を進める

新潟小学校は、校区に歴史ある新潟市の中心地を抱え、その文化の継承を担うとともに、地域の様々な素材を学びに生かしていく。それにより、郷土や地域への愛情を深めていきたい。特に、新潟まつり等への参加や地域の商店街や施設、人とのつながりの中から教育活動を進めていくことを大切にしたい。また、学校運営協議会を通して地域との協力関係を一層強化していく。

(2) ボランティアの協力を得る

新潟小学校は、以前から、保護者や地域のボランティアに支えられてきた。教育活動をより充実させるためには、今後もボランティアの力が必要である。そこで、様々なボランティアの在り方を検討するとともに、今後も多くの方に支援を求めていく。

(3) 保護者との連携協力、考え方の共有

子ども一人一人の健やかな成長には、保護者との考え方の共有がこれまで以上に重要となっている。学校と保護者が同じ方向を向いて子どもにかかわることで、子どもが抱える様々な問題を解決に導くことができる。保護者と職員とのコミュニケーションの重要性も一層増している。

(4) 中学校との連携

中一ギャップの解消など、諸課題の解決に向けて小学校と中学校との連携が不可欠である。寄居中学校とは、これまでも職員の合同研修や新潟まつりへの参加など、様々な場面で連携してきた。現在、義務教育9年間の学びを通した目指す生徒像を「よりよい自己と社会の実現に向けて共に挑む子ども」として共有している。今後も、「一小一中」の良さを生かして連携を進めていく。

(5) 働き方改革と職務遂行の向上

新潟小学校の職員が、余裕をもって子どもと向き合うため、質の高い教育活動を行っていくために、職員の働き方改善が求められている。改善を進める上での重要な視点として、職員が授業や教育活動の計画・準備を確実にこなせるような時間を保障するとともに、十分な研修を受けることで、その資質・能力を向上させることが必要である。